



発行所

一般社団法人
全日本木材市場連盟
編集・発行人 柱本 修
東京都文京区後楽 1-7-12
〒112-0004 林友ビル6階
電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価・年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

■全市連第70回定期総会・大阪大会を開催

当連盟は5月26日(月)、第70回定期総会を大阪市中央区のKKRホテル大阪で開催した。会員の出席は、代理出席、委任状等を含めて144名。来賓として林野庁木材産業課鈴木清史上席木材専門官、高橋和宏近畿中国森林管理局長、松山能久全国木材買方組合連合会会長ほか多くの方々にご出席頂いた。大会では全市連会長功労者表彰状の贈呈が行われ、令和6年度の事業報告・同決算を決議し、役員変更等を承認、最後に大会宣言を採択した。

【開会宣言・開会の挨拶】

菅生康清副会長(近畿支部長、桜井木材(協))が昨年総会以降の会員関係物故者への黙祷の後、定期総会の開会を宣言した。

守屋会長は開会挨拶で出席会員及び来賓への謝意、近畿支部・大阪の会員市場の協力への謝意、表彰者への祝辞を述べた後、大阪の皆様から大阪・関西万博に合わせてぜひ大阪で定期総会を開催したいとのお話があり、本日の大阪大会が実現した。高校生の時に前回の万博を訪れた。そこで新しい技術を見て、将来こ



会長賞表彰者



守屋会長挨拶

なことができる時代が来るのだと感じた。今の万博も訪れた子供たちの中に何かが残ると思う。トランプ関税など多くの問題があるが、今日一日いろいろなことを意見交換していただき有意義に過ごしていただきたいと述べた。

【来賓祝辞】

林野庁鈴木上席木材専門官から次のとおり青山豊久林野庁長官の祝辞を代読いただいた。「全日本木材市場連盟の第70回通常総会が開催されるにあたり、一言御挨拶申し上げます。貴連盟の皆様には、日頃より、森林・林業・木材産業行政の推進に当たり、御理解と御協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の森林資源は本格的な利用期を迎えており、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用のサイクルを確立し、2050年ネット・ゼロの実現に貢献していくことが重要です。特に、近年では、経済界を中心に、「SDGsへの貢献」の観点から、木材利用への期待や関心が高まっています。建築物等への木材の利用は、炭素を長期間貯蔵でき、伐採後の再造林は森林を若返らせ、炭素吸収量の増大につながると期待されています。

このような中、林野庁では、国産材の加工流通体制の整備と、木材の需要拡大に積極的に取り組んでまいりました。その結果、国産材の供給量は2002年の1,700万m³から2023年には3,400万m³へ倍増し、木材の自給率も、18・8%から43・0%へ上昇しました。特に、建築用材については、国産材率が55%へ上昇しております。これも、ひと



林野庁鈴木上席木材専門官祝辞

えに、木材流通を担う皆様が、国産材を積極的に取り扱ってくださったおかげであり、皆様の取組に厚く御礼申し上げます。

本年4月からは、「改正建築基準法」、「改正物流効率化法」及び「改正クリーンウッド法」が施行され、木材流通を取り巻く環境は大きく変化しようとしています。林野庁としても、国産材の安定供給体制の構築に力を尽くしてまいりますので、皆様には、環境の変化に柔軟に対応しながら、引き続き、国産材の安定供給にお力添え頂けることを期待しております。

結びに、全日本木材市場連盟の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。」

全買連松山会長は、大阪大会開催への祝辞、全市連の活動や全買連運営への支援に対する謝辞に加えて、我々川下の材木店等は川上の植林や伐採・加工などに関係される方々に感謝しながら市場の皆様とともに先人が育てた木材を街に届ける商売をしている。最近では伐った後の再造林率は3〜4割と聞いており、その要



全買連松山会長祝辞

因には木材価格の低迷、造林費用の負担、担い手不足、森林所有者等の経営への関心の低下などがある。全買連では木材運搬手数料いわゆる配送料の受領にご理解をいただく活動を開始し、少しでも採算が改善し木材利用と山元への還元につながるよう活動している。ご理解ご支援をお願い申し上げます。木材市場が質の良い多様な木材を揃え、木材市場と材木店などの中間流通関係者がこれまで以上にお客様や行政機関と繋がりを強め、木材利用を拡大し、森林・林業・木材業界に貢献することが重要。全買連は脱炭素社会の実現や国産材の利用促進への期待、建築基準法、物流効率化法等の改正・施行等を念頭に置き、関係団体と連携しながら活動を進めていきたいと述べた。

【議事】

議事は安部雄祐奥羽支部長（株）山形城南木材市場）を議長にして進行。

第1号議案 令和6年度事業報告及び収支決算承認の件

令和6年度は、木材利用促進に向けて、木材アドバイザー養成講習会の開催や各種の普及活動を実施した。国産材の需要拡大、安定供給に向けて、全国優良木材

展示会、国産材地方展示即売会、国産材需要拡大製材品特別展示大会、国の補助事業である需給情報連絡協議会等に取り組んだ。合法証明木材及び木質バイオマス供給事業者を認定し、当連盟の発電に供する木質バイオマスに関する自主的行動規範と実施要領を改正した。木材需給動向調査の実施、原木部会・製品部会の開催、会員への情報提供を行った。改正クリーンウッド法、改正建築基準法、改正物流効率化法の施行に向けて林野庁等と意見交換を行い、会員への情報提供等を行った。福祉共済事業を実施した。

令和6年度決算は、経常収益計28、626千円余、経常費用計26、990千円余となり、当期経常増減額は1、635千円余の増となった。

定款第22条の規定に基づき、萩原宏監事より決算等の内容は適正であるとの監査報告を行い承認された。

第2号議案 令和7年度事業計画及び収支予算報告の件

3月の理事会で承認された事業計画及び収支予算の概要を報告。

第3号議案 令和7年度会費割当ての件

令和7年度会費割当てが承認された。

第4号議案 役員改選の件

市川英治副会長（関東支部長、東京木材市場（株））の退任に伴い飯島義雄理事（東京中央木材市場（株）が副会長（関東支部長）に選任され、氏橋武史氏（東京木材市場（株））が理事に選任された。

小山富美男理事（元全素協専務理事）の退任に伴い矢野彰宏氏（全素協専務理事）が理事に選任された。

第5号議案 次回定期総会開催地の決定

来年の定期総会を東京で開催すること承認された。

大会宣言の決議

岡本剛中国支部長（株）岡山相互木材市場）より次の大会宣言案を提案し、満場一致で採択された。

私たち全市連会員は、本日ここに第70回定期総会・大阪大会を開催した。

我が国の人工林資源が本格的な利用期を迎えるなか、皆伐・再造林の推進、担い手の育成、国産材の安定供給体制の整備、木材利用の拡大は、林業・木材産業が一体となって取り組むべき重要課題となっている。また、SDGsや脱炭素社会の実現に向けて、林業・木材産業への期待が高まっている。

一方、我が国経済の先行きや木材需給を取り巻く情勢は、米国の通商政策の影響、物価上昇の継続、為替の変動など、不透明な状況に直面している。

木材流通において大きな役割を果たしている全市連会員は、経験と実績を活かし、関係団体と連携して需給の変化に柔軟に対応できる安定供給体制づくりに取り組む必要がある。

このような認識の下、政府に対し、山元に利益を還元できるよう、生産・加工・流通対策、皆伐・再造林対策、木材利用拡大対策、消費回復に向けた物価対策を強く要請するとともに、自ら、次の事項に積極的に取り組むものとする。

○大震災・台風等自然災害からの復興・再生に向け、地域材の利用拡大等に取り組もう。

○山元に利益を還元できるサプライチェーンの構築等を通じて、木材の安定供給と資源の循環利用を推進し、海外情勢の影響を受けにくい木材の需給構造を構築しよう。

○林業・木材産業によるグリーン成長、SDGsの達成、カーボンニュートラル実現に貢献しよう。

○都市等における「第2の森林」づくり、木の良さが伝わる木造化や内装木質化に取り組もう。

○改正クリーンウッド法の下、合法性証明木材及び木質バイオマス証明の信頼性の維持・向上に取り組もう。

○JAS製材品等、品質の確かな木材製品の需要拡大と供給体制整備に取り組もう。

○川上・川下と連携して、木の良さを広める人材養成に取り組もう。

【閉会の言葉】

二宮政文副会長（四国支部長、（株）大木坑木（有））の「地域の木材流通の要としての役割を果たしてまいりましょう。」との挨拶により閉会した。

【記念講演】

海堀哲也 朝日ウッドテック（株）取締役副会長から「国産広葉樹の活用に向けて―朝日ウッドテックの取組―」と題したご講演をいただいた。

講演では国産広葉樹材の床材としての利用について次の事項に重点をおいて、詳しい分析や取組事例を紹介いただいた。

○国産広葉樹の構造的課題

日本の広葉樹は森林面積、蓄積量の割に伐採量が少なく、量・質両面で安定した木材広葉樹材に比べてあまり利用されてこなかった。

国産広葉樹は、伐採や製材に手間がかかる、まとまって安定的に市場に出てこない、製材所が少ない、高齢化や人材不足等の生産プロセスの課題があり、経済価値が低下し、供給・利用が減少する悪循環に陥っていると考えられる。

○国産広葉樹の可能性

資源の循環利用など森林資源の価値の変化、自然志向やこだわりなどインテリアートレンドと消費スタイルの変化、住宅市場の構造変化などから国産広葉樹を利用する可能性は高まりつつある。

○広葉樹活用の方角性と朝日WTの活用事例

①脱炭素など環境に敏感なプロユーザーへ提案を行っている。

②今まで使ってこなかった節のある材などラステックと呼ばれる材のキャクターを上手く使えば、小径木でも市広材が取れる。ラステックの需要ができたことで小径木のナラ材需要が増加し、広葉樹の付加価値が向上すれば、山元・製材所などへも貢献できる。こうして利用量の増加と生産量の増加の好循環を生み出すことを目指す。

③「希少性」「産地」「樹種」をストーリーとした限定品への転換にも取組んでいる。例えば、エリア限定販売で特別感を演出する、特定の産地の材料を更に厳選し、その希少性をこだわりのある限定品として高付加価値品へ転換する等の取組も始めた。

④川上から川下が連携して利活用の機運を向上させる取組として、仙台木材市場と協力してナラ枯れ材を利用したフローリング製品の展示を行った。



海堀哲也朝日ウッドテック（株）
副会長の講演

海堀氏は、我々は市場で役立つ建材技術と素材を生かす技術によって、天然木の床の上で暮らす人々の幸せと森の豊かさとそれを支える人々の幸せを実現していきたいと話し講演を締めくくった。

講演後の質疑応答では、どれくらいサイズの小径材まで床材に利用できるのか等について熱心な議論が行われた。

令和6年度全市連功労者 会長賞表彰者

次の29名の方が全市連功労者会長賞を表彰されました。誠にありがとうございます。

○市場関係（27名）

長尾睦美（株）平木材市場、篠原大介（ナイス（株）前橋市場）、伊藤恭太（株）ミトモク、斉藤英樹（千葉県木材市場（協））、大島健二（東京木材相互市場つくば銘木協会（有）大島樫材工業）、吉田貞俊（株）吉貞、石澤悦子（株）東京木材相互市場筑波市場、都竹政博（株）東京木材相互市場つくば事業部、長谷川美智恵（ナイス（株）新潟市場）、石田達亮（株）東海木材相互市場、大

塚亘（株）東海木材相互市場、山本剛（西垣林業（株）三重事業所マルタピア）、河合寿司（株）菅生銘木市場、米田真樹（桜井木材（協））、宇都宮靖央（ナイス（株）滋賀市場）、前田芳章（株）大阪木材相互市場、大谷幸介（株）大阪木材相互市場、林博明（株）大阪木材相互市場、母里英男（株）勝山木材市場、定方出（株）勝山木材市場、青木幸司（株）岡山木材相互市場、逸見誠治（株）岡山木材相互市場、川田益代（株）岡山木材相互市場、榎田健雄（株）岡山木材相互市場、高木寿志（株）日吉原木市場、大川光次（肥後木材（株））、蔵座銀次郎（熊本木材（株）上球磨支店）

○問屋関係（2名）

山田泰文（材惣木材（株））、松浦敏文（株）Aishin Hikari

発電用木質バイオマス証明にかかる様式を改訂

昨年4月に林野庁の「発電利用に供する木質バイオマスの証明のためのガイドライン」がライフサイクルGHGの算定に必要な情報を発電事業者に伝達できるよう改正されたことを受け、11月に当連盟の自主行動規範及び実施要領を改正したところである。

さらに本年4月に林野庁ガイドラインにトラック輸送のGHG値を10km単位に改善、4t未満の輸送の計算を可能とする区分を追加、内航船輸送のGHG値の追加等の運用改善が図られたことを受け、5月26日の当連盟の令和7年度第1

回理事会において当連盟の木質バイオマス証明の様式を改正が承認された。

国産林野事業の令和7年度主要事業量

令和7年度の国産林野事業の主要事業量は、立木販売量は約986万㎡（令和6年度比108%）、素材販売は約349万㎡（令和6年度比102%）を予定。樹木採取権については、今年度は3箇所で公募を行う予定。樹木採取権より規模・期間を縮小した立木販売と伐採後の造林請負事業が附帯した「立木システム販売」の公募準備を進める（来年度公募予定）。

＜参考資料＞ 令和7年度 主要事業量（年度当初）

※需給状況により事業量は変動することがあります。

区分		令和6年度	令和7年度	対前年度比 (%)
人工造林面積(万ha)		1.0	1.1	110 %
下刈り面積(万ha)		3.1	2.9	94 %
間伐面積(万ha)		10.0	9.0	90 %
林道の新設延長(km)		52	35	67 %
販売量(万㎡)	立木販売	916 <248>	986	108 %
	素材販売	343	349	102 %

(注1)令和6年度予定量と令和7年度予定量。
(注2)令和6年度の<>書きは実績（速報値）。
(注3)間伐面積は、森林吸収源対策として把握する面積。

(注4)林道には、林業専用道を含む。
(注5)立木販売の販売量は、立木材積であり、官行造林の伐採に係る予定量を含む。
(注6)素材販売の販売量は、丸太材積。

■東京木材市場がさつき祭り開催

東京木材市場(株)(氏橋武史社長)は5月8日、さつき祭りを開催した。当日は全木連の中村直人常務理事による「改正クリーンウッド法と合法性確認」と題した特別講演が行われた。講演では、改正クリーンウッド法と林野庁ガイドライン(団体認定制度)に基づく合法木材証明制度の詳しい説明があり、団体認定制度に基づく合法木材証明制度をクリーンウッド法の順守・普及に活用することが提案された。



全木連中村常務の講演

■木材を使った各国のパビリオン

大阪・関西万博の会場には、木造や外装に木材を使ったパビリオンが数多く立ち並んでいる。各国のパビリオンの中から外装や構造等に木材を使った建築をいくつか写真で紹介したい。



オーストリア館



ウズベキスタン館



アイルランド館



北欧館



日本館



チェコ館



ルーマニア館



ポーランド館



バーレーン館